

新生児期-幼児期QT延長症候群の発育・発達に関する研究

小児科・小児循環器科に通院中の患者さまへ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、この研究のもっと詳細をお知りになりたい、「自分の情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。

対象となる方

新生児期から幼児期にQT延長症候群と診断された方。

研究責任者

宮崎 文 小児科 医師

研究の目的

QT延長症候群の診断と治療はここ数年で飛躍的に進歩してきました。特に小児期に診断されるQT延長症候群の診断年齢はどんどん若年化してきており、近年、新生児期にすでにQT延長症候群と診断される例が散見されます。その中で、てんかんや発達障害を合併する方がいることがわかってきました。これはQT延長症候群の遺伝子異常に関連するものなのか、胎児期に母体で致死性不整脈をおこし一時的に脳虚血の状態にあったことが関連しているのか、などその原因についてはいまだ不明です。そこで、どういった方にてんかんや発達障害が合併するのかを明らかにするため、新生児期にQT延長と診断された患者さまの発達についての研究を実施しようと考えました。

利用するカルテ情報・資料

(例：年齢、性別、家族歴、心電図検査、遺伝子検査、致死性不整脈合併の有無、てんかんの合併の有無、KIDS乳幼児発達スケール)

個人情報の取り扱い

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

研究費

この研究で使用する研究費はありません。

知的財産権について

この研究でなんらかの知的財産権が発生した場合は、研究機関や研究者に所属し、患者さまには属しません。

問合せ先

天理よろづ相談所病院 小児科 担当医師 宮崎 文
電話 0743-63-5611(代表)